

# NEWS RELEASE

平成21年 7月

三重県松阪市京町510番地  
株式会社 第三銀行

## 「景気見通しと消費行動に関するアンケート」

### 調査結果について

株式会社 第三銀行（頭取 伊藤準一）では、三重県内の消費者が、景気についてどのような見通しをもち、今後どのような消費行動をとろうとしているのか、定額給付金等政府の経済対策はどのように影響しているのか等について調査するため、三重県内本支店（64店舗）の来店客を対象にアンケートを実施しました。今般、その調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

#### 記

##### ★調査結果のポイント

景気の回復時期については、「来年以降」と見ている人が大部分で、「回復は再来年以降」と予想する人も多く見られました。収入面や雇用面についても多くの人が先行き不安を感じていることがわかりました。

消費行動についても、このような景気の先行きに対する不安から、多くの人が支出への抑制姿勢を強くしています。特に日用品や食料品など生活必需品の購入を抑えている人は、前年調査時の26.1%から今回50.8%と大幅に増加しています。このように生活必需品にまで支出を抑制する行動が広がっていることから、今後一段と個人消費が落ち込み、さらに景気の悪化につながっていくことが懸念されます。

ただ、今後の消費行動について聞いたところ、節約行動は全般的に現状よりもやや緩和される傾向にあります。これは、定額給付金等政府の経済対策の効果によるものと思われます。

定額給付金の用途については、「貯蓄」する人は若年齢者層で多く、年代の高い層ほど給付金を使う人が多いようです。ただし、同じく政府の経済対策である省エネ家電購入ポイント補助と環境対応車購入補助について聞いたところ、エコ家電、エコカーともに「今後1年程度の間購入する予定なし」とする人が多数を占め、経済対策による個人消費喚起効果はそれほど期待できないといえそうです。

（詳細は別紙をご参照ください）

本件に関するお問い合わせ先

担 当	総合企画部広報課 北 川	TEL 0598-25-0363
	経済研究所 小 林	TEL 0598-25-0366

キラリと光るあなたの銀行



## 景気見通しと消費行動に関するアンケート調査

三重県内の消費者が、景気についてどのような見通しをもち、今後どのような消費行動をとろうとしているのか、政府の経済対策は消費にどう影響しているか等について調査するため、アンケート調査を実施しました。

### 1. 調査方法の概要

- (1) 調査方法：当行三重県内本支店を通じてのアンケート調査
- (2) 調査時期：平成 21 年 5 月中旬
- (3) 調査対象者（数）：三重県内本支店 64 店舗（出張所含む）の来店客 1,000 名
- (4) 有効回答者数（率）：986 名（98.6%）

#### 【回答者の状況】

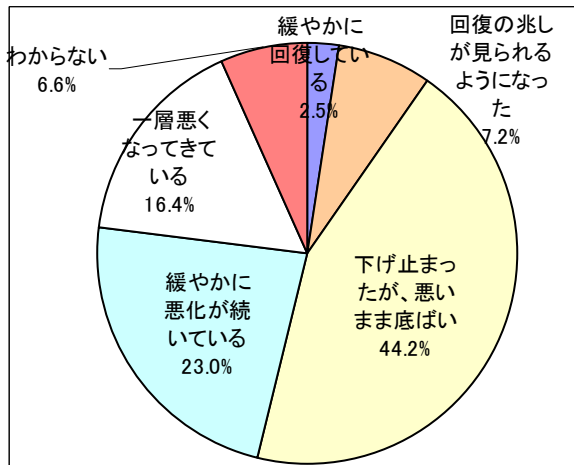
（単位：人）

	29 歳以下	30 歳～39 歳	40 歳～49 歳	50 歳～59 歳	60 歳以上	合計	構成比(%)
男性	50	75	69	50	93	337	34.1
女性	130	126	149	124	120	649	65.8
合計	180	201	218	174	213	986	100.0
構成比(%)	18.3	20.4	22.1	17.6	21.6	100.0	

※集計結果につきましては、年齢・性別の回答者の多少により、若干の偏差があると思われるので、ご了承ください。

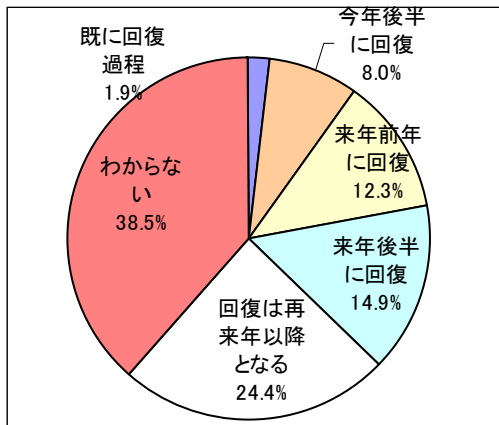
### 調査結果の概要

問 1. あなたは、現在の景気について、どのように感じていますか



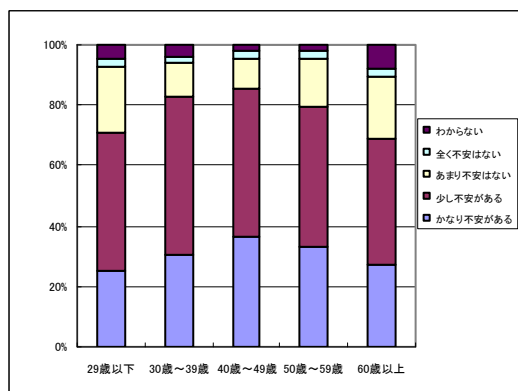
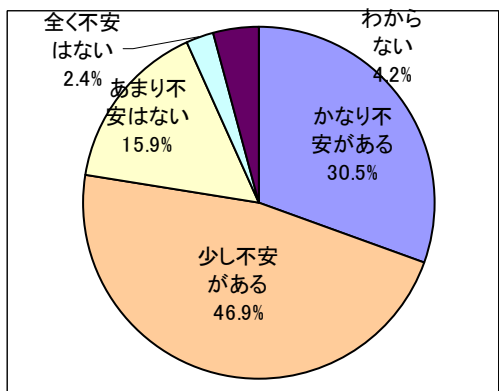
「緩やかに回復している」「回復の兆しが見られる」を合わせても 9.7%にとどまり、「悪いまま底ばい」が 44.2%、「緩やかに悪化が続いている」「一層悪化している」を合わせると 39.4%となり、景気の現状については、多くの人が回復を実感していないようです。

問2. あなたは、景気の回復時期について、どのようにお考えですか



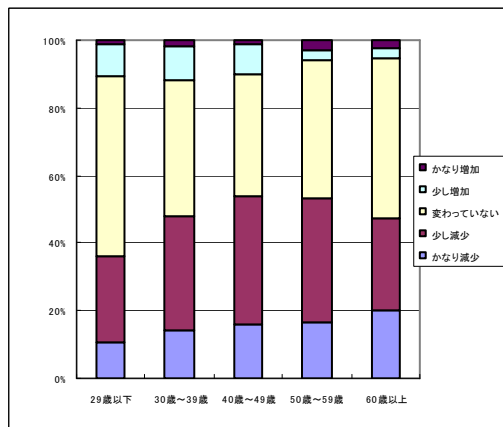
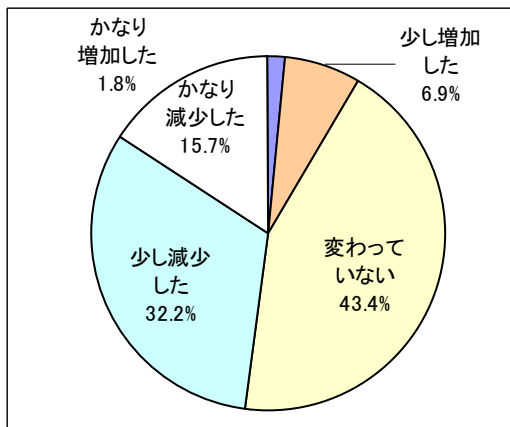
「既に回復過程にある」「今年後半に回復する」を合わせても9.9%にとどまり、大部分の人が景気回復は来年以降とみています。「回復は再来年以降」と予想する人も24.4%に上り、今回の景気後退からの脱却には厳しい見方をする人が多くみられます。

問3. あなた自身またはあなたの家族の先行きの雇用や就職について、どのように感じていますか



「かなり不安がある」「少し不安がある」を合わせると77.4%にのぼり、非常に多くの方が雇用や就職の先行きについて不安を感じている実態が浮び上がりました。年代別にみると若年層に比較して中高年層で不安を感じている人が多くみられ、40歳代が85.3%と不安を感じる比率が最も高くなっています。40歳代では、自身の雇用面の不安に加え、不況下でこれから就職を迎える子供に対する不安も大きいのではないかと推測されます。

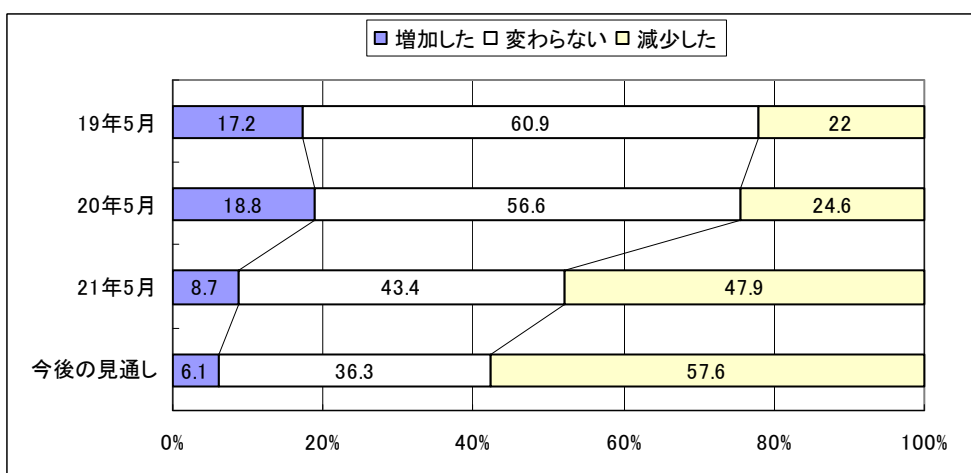
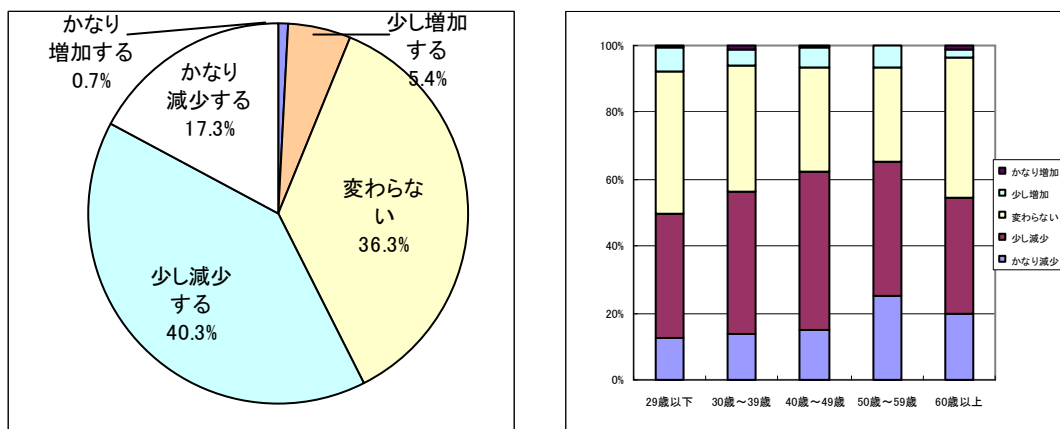
問4. 現在のあなたの世帯の収入は、1年前と比べてどう変わりましたか



収入については、1年前より「かなり減少した」「少し減少した」人を合わせると47.9%にのぼりました。昨年の調査時点では「減少した」人は24.6%でしたので、景気の悪化

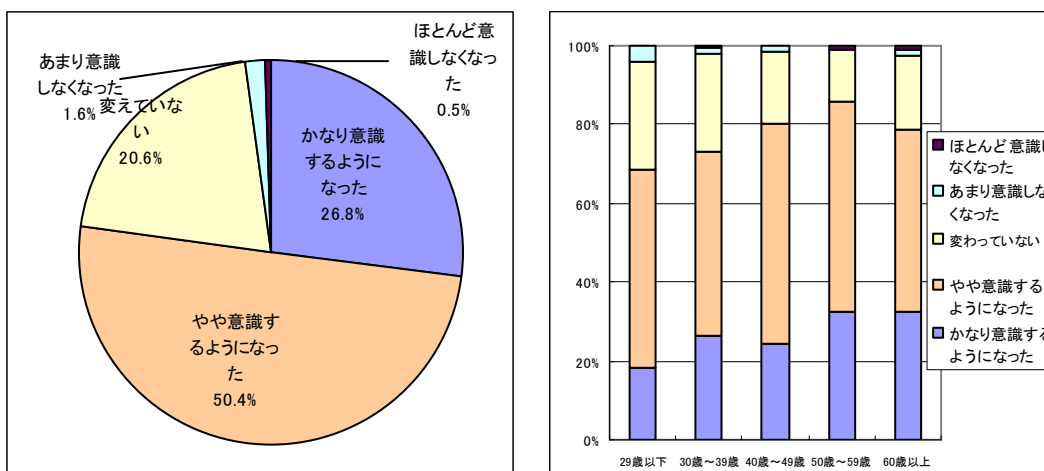
が収入面にもかなり影響を与えているようです。年代別にみると 40 歳代と 50 歳代で収入の減少した人が多くみられます。

問 5. 今後、あなたの世帯の収入はどのようにと予想されますか



今後の収入の見通しについては、「かなり減少」と「少し減少」を合わせると 57.6% にのぼり、現状より厳しくなるとの予想が多くなっています。20 歳代や 60 歳代に比較して特に 50 歳代と 40 歳代で「減少する」とする比率が高くなりました。この年代では教育費や住宅ローンの負担が大きく、家計はさらに厳しさが増すことが予想されます。

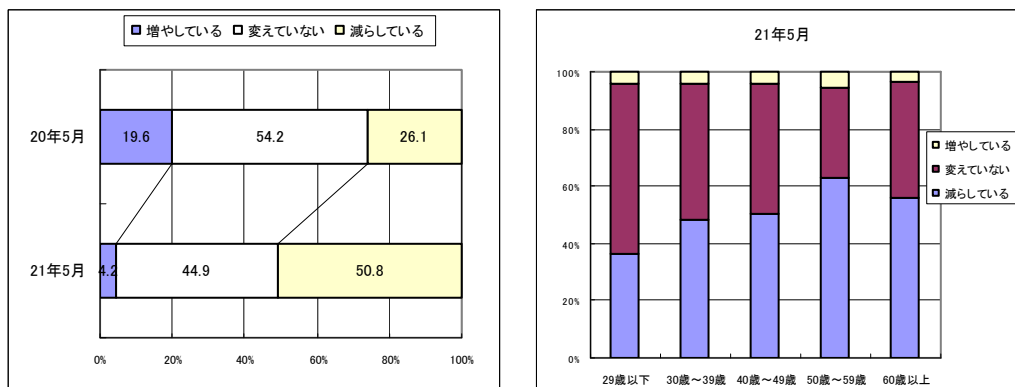
問 6. あなたの世帯は、1 年前と比べて、節約のため支出を抑えるように意識するようになりましたか



「かなり意識するようになった」と「やや意識するようになった」を合わせると 77.2% にのぼり、多くの人が節約のため支出を抑えているようです。年代別にみると、年齢の

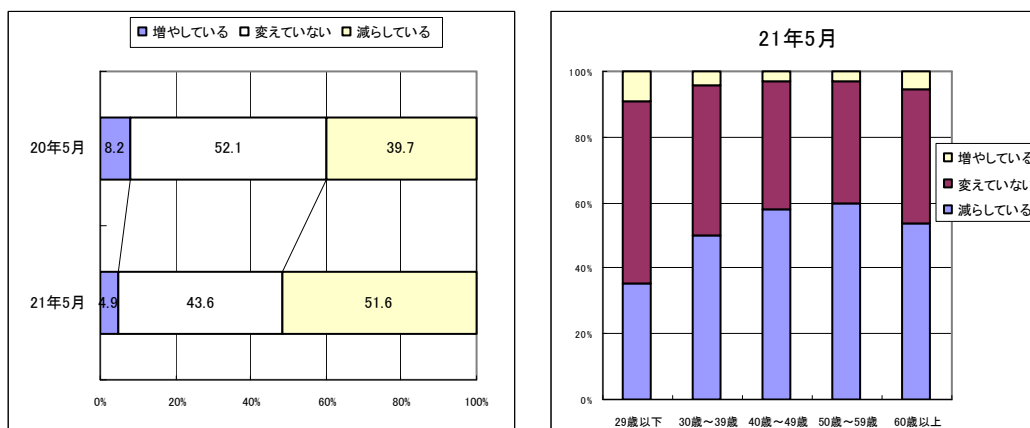
高い人ほどその傾向が強く、特に収入の減少した人の割合の多い50歳代で最も節約意識が高くなっています。

問7. あなたの世帯では、1年前に比べて生活必需品や日用品等の日常的な支出についてどうしていますか



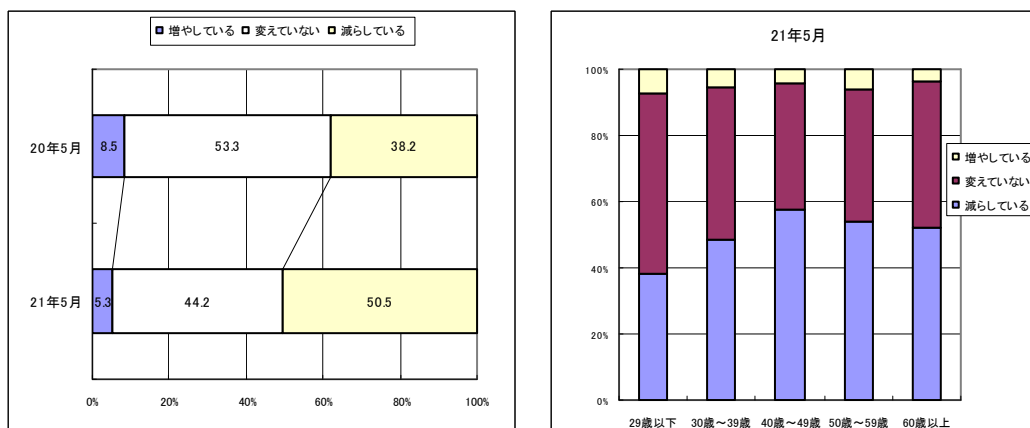
1年前の調査と比較して、「増やしている」が19.6%から4.2%に減少、「減らしている」が26.1%から50.8%と大きく増加しました。高齢者層を中心に、日常的な支出まで抑える傾向が強まっています。

問8. あなたの世帯では、1年前に比べて趣味・レジャー・旅行等の支出についてどうしていますか



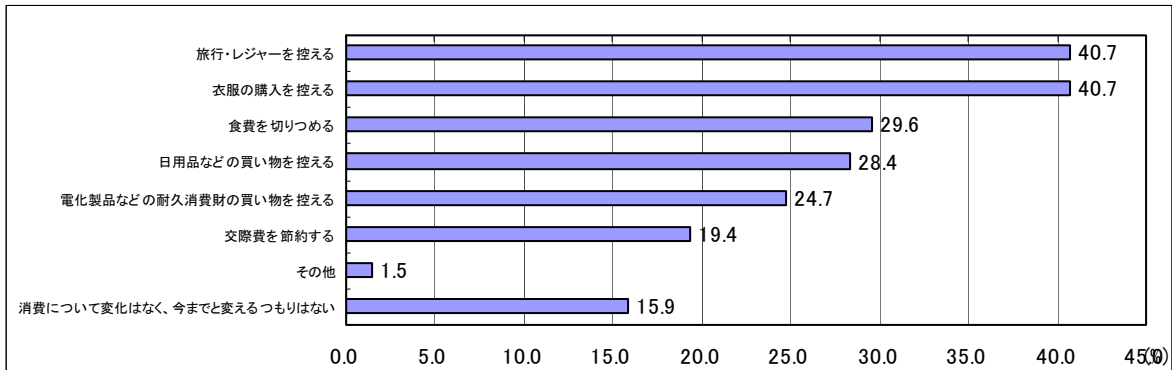
「生活必需品・日用品」に比べ「趣味・レジャー・旅行」支出は、1年前の調査時点で既に抑えている人が多くみられましたが、今回の調査でも「増やしている」が8.2%から4.9%に減少、「減らしている」が39.7%から51.6%に増加し、さらに支出抑制傾向が強まっています。特に40歳代と50歳代で趣味・レジャー・旅行を抑えている人が増加しています。

問9. あなたの世帯では、1年前に比べて洋服や家電製品等の耐久消費財の支出についてどうしていますか



1年前の調査と比較して、「増やしている」が8.5%から5.3%に減少、「減らしている」が38.2%から50.5%に増加しました。生活必需品・日用品や趣味・レジャー・旅行と同様に、若年層よりも中高年層に支出を抑制している傾向がみられます。

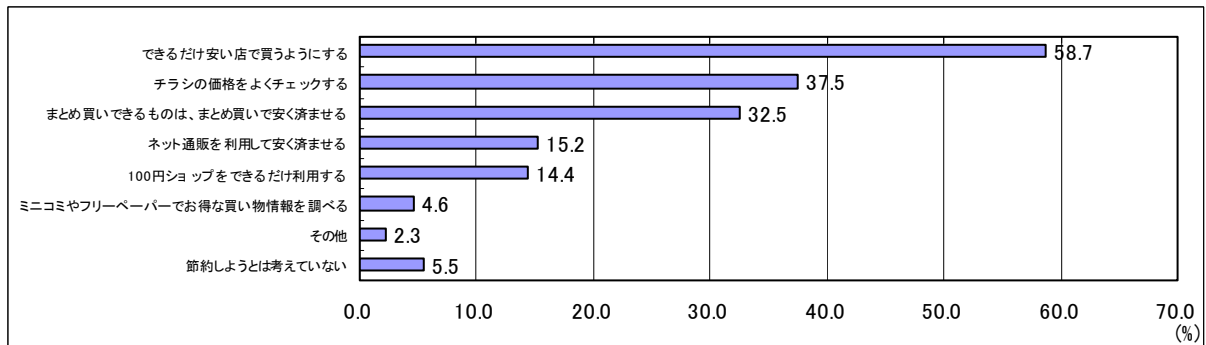
問 10. これからの消費行動についてお伺いします。あなたは今後1年程度の間、消費についてどのような行動をとろうと考えていますか。既に実行している項目も含めて回答してください（複数回答可）



今後の消費行動については、「旅行・レジャーを控える」と「衣服の購入を控える」人が最も多く、続いて「食費を切りつめる」「日用品などの買い物を控える」となっています。

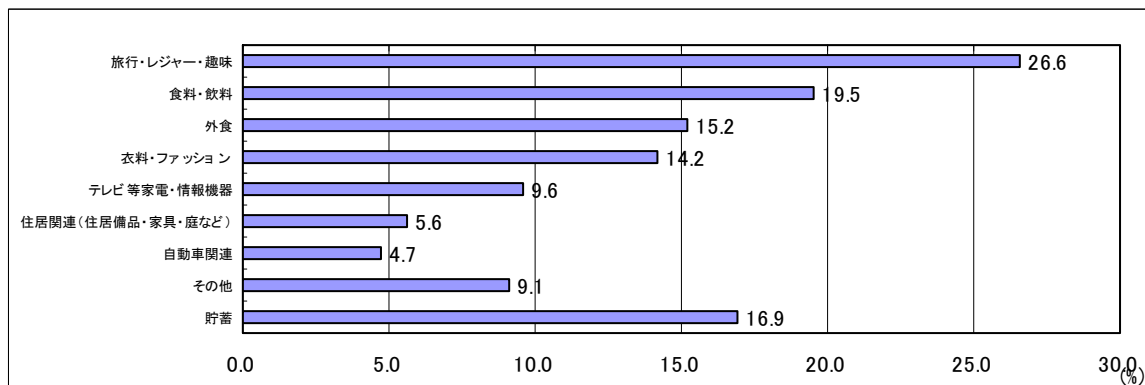
「旅行・レジャーを控える」人の割合が現状では51.6%なのに対し今後1年間では40.7%となっているのをはじめ、節約行動は全般的に現状よりもやや緩和される傾向にあります。政府の経済対策の効果が少しみられるようです。

問 11. 買い物にあたって、節約のために現在していること、あるいは今後してみようと思うことは何ですか（複数回答可）



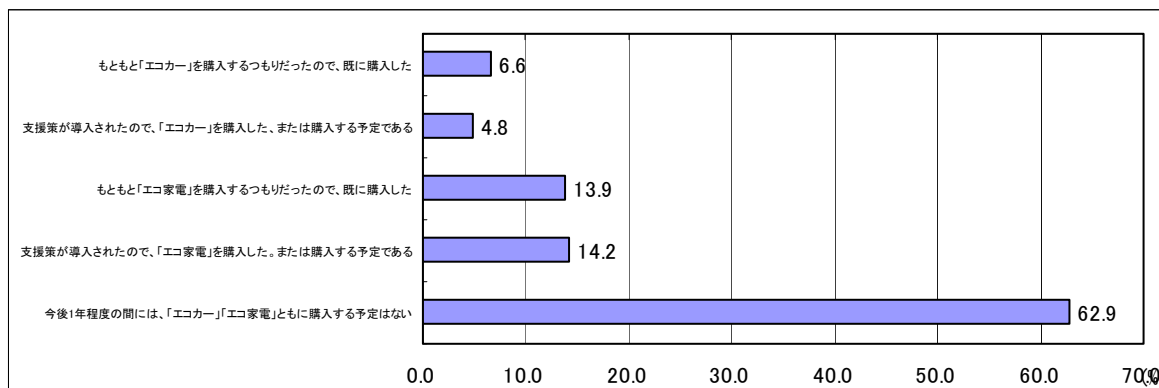
節約のためにしていることは、「できるだけ安い店で買う」が最も多く、続いて「チラシの価格をチェック」「まとめ買い」の順となっています。「チラシの価格チェック」「まとめ買い」する人は男性より女性に多くみられました。

問 12. 定額給付金の使途についてお聞きします。あなたは、定額給付金をどのように使いましたか。または、どのように使う予定ですか（複数回答）



定額給付金の使途のうち最も多いものは「旅行・レジャー・趣味」で、続いて「食料・飲料」「貯蓄」「外食」「衣料・ファッション」の順となり、「テレビ等家電・情報機器」「自動車関連」「住居関連」等高額な商品購入費の一部に充てるという人は少ないようです。20歳代では他の年代に比較して、「衣料・ファッション」に使うとする回答が多く「食品・飲料」に使うとの回答が少なくなっています。また、「貯蓄」する人は高年齢層よりも若年齢層で多く、年代の高い層ほど給付金を使う人が多いということがわかりました。

問 13. 政府の追加経済対策で、テレビや冷蔵庫などの「省エネ家電」や「低燃費自動車」の購入支援策が導入されることになりましたが、あなたの消費行動は次のうちどれですか（複数回答可）



政府の追加経済対策で一般消費者に最も近い政策である省エネ家電購入ポイント補助と環境対応車購入補助について聞いたところ、エコ家電、エコカーともに「今後1年程度の間購入する予定なし」とする人が62.9%と多数を占めました。年代別にみてもどの年代でも50%以上の方が購入する予定がなく、特に20歳代では74.4%が予定なしとなっています。経済対策による個人消費喚起効果は限定的なものとなりそうです。

以上